

“敬念寺の法灯” 継承される!
— 釋宏真新御住職就任・釋玄真前御住職退任 —



釋宏真新住職 (敬念寺第四世住職)



発行所
 岡谷市郷田一丁目6番3号
 TEL(0266)22-2524
金松山 敬念寺
 発行
 敬念寺門信徒会
 編集
 会報組織委員会
 朝7時はみ仏さまや
 彼(か)の人との
 出会(であ)いの時間

「新住職就任祝賀会・前任職御慰勞謝恩会」

延期の御案内

敬念寺住職継職式が、敬念寺並びに敬念寺門信徒会共催により、昨年十一月十日開催の報恩講法要後に、本号に掲載のように執り行われました。

住職継職式の席上、並びに前号「敬念寺だより」でもお知らせしましたように、住職継職に伴う新住職就任祝賀・前任職御慰勞謝恩の会を、今春四月二十五日に開催するように計画して準備を進めてまいりましたが、現下での新型コロナウイルス感染は拡大の一途をたどっており、収束が見通せない状況となっております。

かかる状況下において、同ウイルス感染予防の観点から屋内での集会等の自粛を求められていることも踏まえ、誠に残念ながら「新住職就任祝賀会・前任職御慰勞謝恩会」の開催は、**延期せざるを得ない状況と判断いたしました。**

開催案内を心待ちにされていた門信徒の皆様には大変心苦しく、申し訳なく存じますが、事情ご高察の上ご理解いただきますようお願い申し上げます。

今後の開催見通し・計画につきましては、五月末発行予定の「敬念寺だより百三十号」にてお知らせできるように、準備を進めてまいります。(開催目標目安六月末以降)

なお、今後の新型コロナウイルス感染問題の影響状況によっては、開催計画の案内時期が流動的であることとお含みおきいただきたく、よろしくご願ひ申し上げます。

令和二年三月三十一日

門信徒会長 千原 博幸

4月25日に開催を予定しておりましたが、「令和2年度門信徒会年次総会」も延期させていただきますことになりました。8頁のお知らせをご覧ください。

- ご寺院行事**
- 5月17日(日) 花まつり 後2:00
 当番会場：敬念寺
 - 7月下旬 第37回ファミリー参拝 (サマースクール) 計画中
 - 8月1日(土) ~7日(金) 第41回早朝連続参拝 前5:30

- ご定例法話会**
- 4月20日(月) 講師 遠山 信敬先生 (福井県)
 - 5月20日(水) 講師 清胤 弘英先生 (広島県)
 - 6月20日(土) 講師 義本 弘導先生 (大阪府)
 - 7月20日(月) 講師 佐々木蓮乗先生 (兵庫県)
- いずれも毎月20日 夜7:00からです。

「令和元年度報恩講法要」同日「敬念寺住職継職式」厳修!

報恩講法要

令和元年度報恩講法要が十一月十日に、松本組各寺院僧侶ご出仕のもと玄真ご住職により、厳修されました。

法要では、親鸞聖人伝絵がプロジェクトで映される中、ご住職による表白に続き全員で行譜の「正信念仏偈」をお唱えし、厳かに法要が営まれました。

また、赤川浄友先生による法話「遇えてよかつた〜おかげさまの心で〜」を聴聞させていただきました。

なお、報恩講法要終了後、「住職継職式」が行われるため、玄真ご住職による最後の法要お勤めとなりました。



住職継職式

報恩講法要厳修の日を機縁に、法要終了後「住職継職式」が次の式次第で執り行われました。

(前号一頁案内記事参照)

- ・開式の言葉
- ・経過報告(門信徒会長)
- ・転座―住職退任・就任の儀―
- ・前任職挨拶
- ・新任職挨拶
- ・門信徒代表挨拶(総代)
- ・記念品贈呈
- ・前任職と新任職へ贈呈
- ・花束贈呈
- ・前任職・坊守と新任職・坊守へ贈呈
- ・閉式の言葉

釋玄真・前任職退任挨拶

本日は、報恩講法要によるこのお参りであります。

ただ今ご覧いただきましたように、この報恩講を機縁に、私が祖師前・第一席から、御代前・第一席に座を代わりました。これを転座といえます。

この転座の儀を持ちまして、私は前任職となりました。若院は、新任職であります。

昭和五十四年に住職に就任致しまして、今年でちょうど四十年となります。

ります。

四十年の間皆様のお支えをいただきお育ていただきながら、こうして大過なく歩ませていただいたのは、「み仏」さまのお蔭であり、また、皆様お一人お一人のお陰と心より御礼を申し上げます。

住職在任の四十年間を振り返って思い出のある一つは、平成三年に開山六十周年を迎えるに際し、敬念寺の総力を挙げて会館、庫裏の建設に当たったことです。

また、本堂屋根の雨漏りという天災にあつたため、平成十年には、本堂屋根を陸屋根から破風屋根に改修いたしました。

お陰様で、お寺としての風格ある堂宇のちたちとさせていたたくことができ、それが一番の思い出であります。

本日、こうして退任することは誠に思いの残るところであります。この上は新任職を中心として、岡谷の地に、念仏の声の道場・敬念寺ここにありと、当山の益々の発展を願うものであります。

私も陰ながら新任職を支え、今後は一念仏者としてお念仏の心を体しながら精進をいたす所存でございます。

永いことお世話になりましたことに改めて御礼を申し上げ、住職退任の挨拶といたします。

釋宏真・新任職就任挨拶

この度、三世金松玄、法名釋玄真住職より法灯を受け継ぎ、敬念寺第四世住職の任に就かせていただくことになりました。金松宏之、法名釋宏真と申します。

これより、第四世金松山・敬念寺住職の任に就かせていただくこと、よろしくお願いいたします。

第三世住職には、四十年もの永い間寺門興隆にご尽力いただきました。

私も三十歳にして敬念寺に赴山いたし、住職の下に二十年間法務を務めさせていただきました。

皆様方とも今日が初めての出遇いではありませんが、これからは住職の任を務めながら、お念仏のみ教えに順じながら、皆様と共に歩んでまいりたいと思っております。

住職として、本分であります伝道教化、そしてお寺にとつては寺門興隆ということが、中心の務めとなります。

これからは今以上に教化伝道、お寺を盛り立てていくことに尽力してまいりたいと思っております。

力不足な所、経験不足の所があるかと思いますが、今まで同様にお育ていただきたくよう、願ひ申し上げます。住職就任の挨拶といたします。



就任の挨拶をする新任職



退任の挨拶をする前任職

門信徒代表挨拶

本日ここに、浄土真宗の門信徒にとりまして最も大切な法要であります報講を機縁に、敬念寺第三世・釋玄真^{せきげん}ご住職から、ご子息であります第四世・釋宏真^{せきこう}ご住職に、金松山敬念寺の法灯が継承されますことは、私ども門信徒にとりましてこの上もない慶びとするものであります。

法灯が継承されますことは、金松山敬念寺に新しい時代が拓かれる慶事としてお互いに慶び合いたいと思います。

誠におめでとうございます。

釋玄真^{せきげん}ご住職は、敬念寺第二世・故直躬^{ちかみね}ご住職の跡を引き継がれ、昭和四十一年に敬念寺に入山され、十二年の間は中学校教諭として教鞭をとられておりましたが、昭和五十四年に第三世として当山住職に就任され、爾来四十年の永きに亘つて、寺門興隆とお念仏のみ教えの伝道教化^{でんどうけい化}に務められました。

在職中は寺院建物の建立・整備にご尽力され、特に門信徒の総力のもと、開山六十周年を機に平成四年に、会館「洗心閣」と庫裏を建設、また平成十年に、本堂屋根を破風屋根に大改修して蓮如聖人五百回忌法要を迎え、平成二十年には参拝ホールを増築して親鸞聖人七百五

十回大遠忌法要を迎えるなど、寺院発展に尽くされました。

一方、お念仏のみ教えを伝える教化事業としては、壮年部・婦人部を設立すると共に昭和五十四年には早朝連続参拝をスタートさせ、また昭和五十六年にはファミリー参拝を立ち上げるなど、他寺院に先駆けて新しい教化活動を展開され、これらの活動は現在の敬念寺の伝道教化事業として脈々と引き継がれて今日にいたつております。

対外的な活躍としては、平成八年に岡谷市仏教会会長に就任され、また浄土真宗本願寺派長野野区の教区会議員や松本組・組長を歴任されて、地域仏教界の発展に貢献されました。

この度のご住職退任にあたり、坊守様と共に四十年間の永きに亘つて、名実ともに風格を備えた敬念寺の護持発展に尽くされ、また、私たちをお念仏の道に深くお導きいただきましたことに、心から感謝と御礼を申し上げます。誠に有難うございました。

本日ここに法灯を引き継がれました釋宏真^{せきこう}・新ご住職は、浄土真宗本願寺派の宗門校である龍谷大学に学ばれた後、平成六年から当山にて前任職のもとで寺院法務に専念され、今日まで二十五年間の法務経験を積み上げてきました。

平成十七年には、本日新坊守となられた奈花様とご結婚され、お二人で協力し合つて当山の寺院法務に尽くされて今日に至つています。

また、新ご住職は現在浄土真宗本願寺派・松本組の副組長としての重責を担われており、宗門の発展に寄与されています。

この度の法灯継承により、敬念寺住職としての新たな立場で、寺院内外での一層のご活躍が期待されることとあり、住職就任を心よりお祝い申し上げます。

誠におめでとうございます。

前ご住職並びに新ご住職様にはこれからも引き続き、私共門信徒をご教導下さいますことをお願いし、門信徒を代表しての御礼の言葉並びにお祝いの言葉といたします。

令和元年十一月十日

門信徒代表 総代・小林睦巳



挨拶する小林睦巳総代

敬念寺住職継職式（住職退任・新住職就任式）のようす



（転座に備えて着座する若院、外陣には坊守様が着座）



（祖師（親鸞様）前に着座する住職、外陣には若坊守様が着座）



（転座の儀2：若院が住職の座へ）



（転座の儀1）



（新旧住職に記念品贈呈）



（前住職・前坊守となられたお二人）



（花束贈呈）



「第三世・釋玄真前住職」の御功績を振り返る!

(撮影日: 令和元年十一月二十六日)



釋玄真・敬念寺第三世住職様は、令和元年十一月十日に當まれた、報恩講法要を機縁に住職の座を退かれました。

昭和五十四年から四十年間の永きに亘り、**洋子坊守様**と共に、金松山敬念寺の住職として、その歴史を刻んで来られました。

本号では、限られた紙面の中ではありますが、そのご功績を振り返らせていただきます。

「釋玄真」前御住職略史

昭和五十四年、十二年間の中学教諭の職を辞して三代住職を継職される。

爾来、寺院機能の活性化、伝道教化に目覚ましい活動を展開、朝七時の常朝事を中心に日曜礼拝、壮年部の結成、昭和五十六年には婦人部等の教化団体を発足させ、車の両輪として早朝連続参拝、全国各地より布教使を招待しての通年常例法話会の開設、ファミリ―参拝立ち上げなど、従来の法要・行事に新風を吹きこみ、新生敬念寺の誕生となった。

また、墓地造成などにより門信徒の数も飛躍的に増加、壇信徒会を門信徒会に改め機構改革も進めてこられた。

平成四年には門信徒の総力を結集し会館庫裡建設、平成十年には本堂を破風屋根に大改修するなど山内を一新した。

平成二十四年の親鸞聖人七百五十回大遠忌を迎えるにあたり記念事業として本堂の耐震補強工事・境内段差解消のためのバリアフリー工事・参拝ホールの新設などを

完成させやさしい寺づくりを推進し、平成二十二年十一月に「大遠忌敬念寺お待ち受け法要・記念事業完成慶讃法要」を厳修した。

教化活動における、大遠忌法要の当山お待ち受けの諸事業・「新たな始まり」の動きの一つとして、仏教讃歌を通じてみ教えを深められるようにと「コールガンダー」発足(平成二十年七月)に繋げられた。十年余を経た現在、報恩講法要等の折、美しいコーラスが本堂に響き、参拝の方々の心に残るひと時をつくりだしている。

斬新な企画として、平成二十四年からお寺の枠にとらわれない各界講師を招き「早朝公開講座」を七回開催し、広く市民にお寺を開放するなどの取り組みもされた。

ガリ版刷りから始めた、寺報が今号まで続く一方、平成二十七年末には、寺のホームページを開設し、活動を情報発信されてきた。

元号が平成から令和に代わったことを節目に、令和元年の報恩講法要を機縁に第一線を退き、ご子息の宏之様・法名釋宏真様に金松山敬念寺の法灯を継承された。

(敬念寺だより第百号五頁の「敬念寺小史」原文を会報委員長が加筆。)



長野教区教務所長様から住職在職30年表彰を受ける (H21.11.8)

昭和52年9月17日発行

敬念寺だより

発行所	木下 藤吉
責任者	曾我 源一
発行	会報組織委員会

秋の彼岸法要について

檀信使のみならず方には大変お世話さまりありがとうございます。秋のお彼岸も近くなりました。本年の彼岸法要は下記のように計画しております。ご家族おろかいでご参詣いただきましてともににぎやか法要をつとめたいと思います。ぜひご参会くださいようご案内申し上げます。

なお当日子供さんには甘酒の持参があります。また法要終了後簡単に湯茶の持参もありますので休養室をご用意しております。

ガリ版刷り：初号の敬念寺だより (S52.9.17)

寺院施設整備の写真で見る！「釋玄真・第三世前住職」の御功績



陸屋根当時の本堂



旧本堂と旧庫裏



破風屋根になった本堂 (平成10年)



会館・庫裏完成 (平成5年)



750回大遠忌記念事業を看板で広報



750回大遠忌記念事業で建設された
参拝ホール (平成20年7月竣工)



整備され風格のあるお寺に (撮影平成27年8月)



本堂を椅子席に変更・座卓を改造しバリアフリー化を推進
(椅子を選定中：平成20年10月)

故大洞軍治様追悼記事

前門信徒会長大洞軍治様におかれましては、去る二月二十三日八十七歳の天寿を全うされ、往生の素懐をとげられました。

氏は壮年部初代部長、教化委員長などを経て、十二年の長きにわたり門信徒会長を歴任され、退任後は門徒総代も務められました。

今日の立派な堂宇となった敬念寺の会館・庫裏建設に参画された後、大遠忌記念事業・参拝ホール建設実施委員長の重責を担ってこられました。

敬念寺本堂で執り行われたご葬儀には、門信徒会長他役員が参列させて頂きました。

尊前に奉呈された、門信徒会長の弔辞を紹介し故人の功績を偲びたいと思います。

弔辞

故大洞軍治様のご葬儀にあたり、金松山敬念寺門信徒を代表して謹んで、哀悼の言葉を申し上げます。

大洞軍治様は長年敬念寺並びに敬念寺門信徒会の発展にご尽力されてきました。

草創期の壮年部立ち上げに携わ

られるとともに、壮年部長として活躍され、その後教化委員長を務められました。

平成十三年には請われて敬念寺門信徒会長に就任され、平成二十六年まで実に三期十二年もの長きに亘り、門信徒会の総責任者として、敬念寺のために献身的にご奉仕くださいました。

その間平成十九年には「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要記念事業実施委員会」の責任者に就任されて、記念事業として参拝ホール建設にご尽力されるなど常に私共門信徒の先頭に立ち、ご活躍くださいました。

門信徒会長を退かれました後も敬念寺門徒総代として住職を支えられ、私共の相談役として今日までご指導いただきました功績は誠に大なるものがあり、当山敬念寺の歴史にその名が永く伝えられることと思います。

また、大洞軍治様は、菊の花の栽培育成を趣味とされていましたが、「報恩講法要の境内を菊の花で飾りましょう」とお寺仲間へ声をかけて同好の志を募り大勢の方々に小菊作りを指導育成されることにより、菊仲間の方々が丹精込めて育てた菊の花で報恩講法要の境内を美しく飾る活動を始めら

れ、それが美しい伝統事業として現在まで続いています。

今、尊いご生涯を終え、阿弥陀如来さまのお浄土に赴かれることは寂しさ一入であります。のちに残る私共が当山の益々の隆昌とこの地にお念仏のみ教えが、人々の心の支えとなるよう教化伝道に一層の努力をすることが、大洞軍治様のお心にお応えする道だと思います。

この上は、お浄土よりご遺族並びに当山の行先を見守りいただきますようお願いし、門信徒を代表してのお別れの言葉といたします。

令和二年二月二十五日

敬念寺門信徒会
会長 千原 博幸



(氏の声掛けで実現した初めての菊づくり講習会と指導される大洞軍治様 28.7.3)



(菊の花で飾られた境内 1.11.10)

行事報告

今年度の研修親睦旅行が一月二十三日(木)〜二十四日(金)大相撲初場所観戦を目玉に、棧敷席の都合で二十七人を募集して行われました。築地本願寺、迎賓館赤坂離宮、江戸東京博物館、国技館と魅力ある行程でした。

豪華な迎賓館に感嘆し、心に残る築地本願寺のパイプオルガン演奏など、貴重な二日間となり、また、目玉の四時間余の大相撲観戦では、県出身力士の取り組みに、皆さん大きな声援を送ったり他の人気力士の取り組みに館内は大いに沸き、テレビでは味わえない雰囲気を経験できました。



築地本願寺(2.1.24)



名入れタオルを掲げて御嶽海を応援(2.1.23)



迎賓館赤坂離宮(2.1.24)

令和二年度

門信徒会年次総会

— 延期のお知らせ —

新年度の門信徒会年次総会を、「新任職就任祝賀会・前任職御慰労謝恩会」と同日の四月二十五日に開催すべく準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症予防への対応から、延期せざるを得ない状況となりました。

このため、令和二年度の事業計画案及び予算案については、門信徒会規則で、緊急の場合を定めた規定により、常任委員会で決定し、後日開催する総会で承認を得ることとさせていただきます。

今後、総会の開催見直し・ご案内につきましては、五月末発行予定の「敬念寺だより百三十号」に掲載すると共に、代議員であるお世話人の方々に開催通知を郵送させていただきます。

なお、開催時期に流動的な面があることをお含みおきいただきますようよろしくお願い申し上げます。

令和二年三月三十一日

門信徒会長 千原 博幸

トピックス

敬念寺境内には三本の松の木があり、風格のある景色となっています。昨春秋ごろから、手水鉢近くにある松の木に枝が枯れていく異変が見られ経過観察されてきました。このほど専門家の診断で、回復の見込みがないとされ、二月中旬残念ながら伐採されました。



(伐採された松の木:撮影2.2.25)

岡谷市仏教会主催

— 花まつり(灌仏会)のご案内 —

日時:5月17日(日)
午後2時~4時半

会 所:(当番寺院) 敬念寺
次 第:法要・講演・茶話会

* 灌仏会:お釈迦様の誕生を祝う仏教行事。誕生仏の頭から甘茶をそそいでお参りします。